



一般社団法人 日本建築学会

東北支部年報

第 45 号

〒980-0011 宮城県仙台市青葉区上杉 1-5-15

日本生命仙台勾当台南ビル 4F

TEL 022-265-3404

FAX 022-265-3405

E-mail: aij-tohoku@mth.biglobe.ne.jp

巻頭言

ネットワークとフットワークの再考を

東北支部長 松本真一

このところ東北地方は毎年のように自然災害に苛まれています。直近に発災した岩手県大船渡市の大規模山林火災などは、記憶に新しい個々の地震や水害、雪害ばかりでなく、自然災害全般への目配りの必要性を示唆していると思います。我々学会員はどのような意識を共有して、こうした問題に取り組むべきなのでしょうか？

学会は、昨年5月末に「日本の建築・まち・地域の新常識」と題する提言を発信しました (<https://www.aij.or.jp/jpn/databox/2024/kanto100th240510.pdf>) が、これは関東大震災100周年を機にまとめられたものです。一般市民に分かり易い言葉で「我々は、皆さんと共に以下のような100年後の理想的な建築・まち・地域を目指すことを提案します…」という前文からはじまるもので、ご承知の方もおられましょう。

この提言には、100年先の社会を見据えた共有すべきビジョンとパラダイムが、「新常識」という言葉を駆使しながら易しく示されていることが重要です。学会全体でのものとして、包括的にまとめられているところは感動的ですらあります。地域固有の気候風土の中で培われてきた営み、働き方、暮らし方に多様性が広い東北地方ですが、本支部においても活動の根本理念とすべきものでしょう。未読の方には是非、ご一読をお勧めします。

さて、そうした方向を見据えて活動する時、今こそ、

考えておきたいことがあります。それは支部活動の「ネットワーク（組織機構）」と「フットワーク（機動性）」です。コロナ禍の下での社会活動、また昨今の社会経済のDX化の波は、我々の活動のネットワークやフットワークにまで確実に影響を及ぼしています。陳腐な例ですが、諸会議のリモート化はその典型でしょう。「建築・まち・地域」の「学術・技術・芸術」を扱い、市民と協働する活動を展開する上で、現実と仮想現実あるいは実と虚の意味を理解して、上手に組み合わせ使いこなした活動を展開していくべきではないでしょうか？

次頁以降に詳しい報告がありますが、昨年6月、5年ぶりの対面方式による「みちのくの風」が開催されました。竹内会長による記念講演のほか、総会行事や建築司法支援会議の行事を併合するなど、思い切った新しい枠組みで実施され、成功だったと思います。これは、対面でのリアルな交流の意義を噛み締める機会でした。また、文化財的価値の高い昭和初期木造建造物「能代市仁鮎小学校」の保存要請の事案がありました。情報収集や対応策の立案が遅れ、支部として十分な対応ができず、解体に至ったことは、斬鬼の念に堪えない出来事でした。

こんなことを背景に、今一度、ポストコロナ禍の支部諸活動のあり方を点検してはどうかと考える次第です。活発な議論の契機となることを祈念し、巻頭言とします。

もくじ

□巻頭言	1
□企画記事	2
□2024年度司法支援建築会議東北支部活動報告	6
□2024年度支部研究補助費活動報告	7
□第45回東北建築賞作品賞選考報告	7
□第45回東北建築賞業績賞選考報告	11
□第45回東北建築賞研究奨励賞選考報告	12
□第34回東北建築作品発表会報告	12
□日本建築学会「作品選集2025」東北支部選考報告	12
□2024年度日本建築学会設計競技東北支部審査報告	13

□2024年度第87回東北支部研究報告会報告	13
□2024年度第10回東北支部建築デザイン発表賞選考報告	13
□2024年度日本建築学会東北支部総会報告	14
□研究部会活動報告	15
□支所だより	18
□支部役員会から	20
□支部役員名簿	22
□2024年度事業報告	23
□2025年度事業計画(案)	25
□法人・賛助会員名簿	27

(1) 「みちのくの風2024 岩手」開催報告

前常議員 市岡 綾子
込山 敦司

令和6年度の「みちのくの風2024岩手」は、5年ぶりに対面で開催した。前回の対面開催は「みちのくの風2019岩手」であり、これも何かの縁を感じる次第である。対面開催を再開するにあたり、従来は5月に開催していた東北支部総会と同時開催であった司法支援建築会議東北支部講演会を併合した。それに伴い、構造系と計画系の各分野による講演会から竹内会長の記念講演会のみになった一方で、支部総会に竹内会長がご臨席され支部の実情をお伝えする機会となり、東北支部にとって非常に有意義であった。以下にその詳細を記す。

開催日：2024年6月22日（土）・23日（日）
会 場：アイーナ・いわて県民情報交流センター

1) 第87回支部研究報告会

発表題数： 84題

参 加 者： 161名

- ・昨年度に対し、発表題数は12題増、参加者数は35名増であった（前回対面開催の2019年度実績と比較すると、発表題数は10題増、参加者数は43名増であった）。ただし、来場者全員が記帳していない可能性もあり、実際の参加者はもっと多いものと思われる。
- ・2日目計画分野の発表会場において席数が不足し、セッション途中で椅子を追加する事態が生じた。その他は概ね順調に進行された。

2) 第10回建築デザイン発表会

発表題数： 5題

参 加 者： 19名

- ・昨年度に対し、発表題数、参加者数ともに同数であった（前回対面開催の2019年度実績と比較すると、発表題数は1題増、参加者数は3名増であった）。
- ・発表会は順調に進行され、発表会終了後には別会場にて選考委員会が開催された。

3) 招待講演（会長記念講演会）

テーマ：災害後も住み続けられるまちづくり

ー美しくタフな建築・まちづくりを目指してー

講演者：竹内徹（日本建築学会会長・東京工業大学教授）

参加者：67名

- ・建築学会が今後重点的に取り組む事項として、BIM等の教育のためのデジタル教材や、出版物等のデジタル化についての学会員調査結果の中間集計結果を用いた説明、および会長自身が展開している性能設計・免震構造の取組みや実大免振試験機E-Isolationが紹介された。



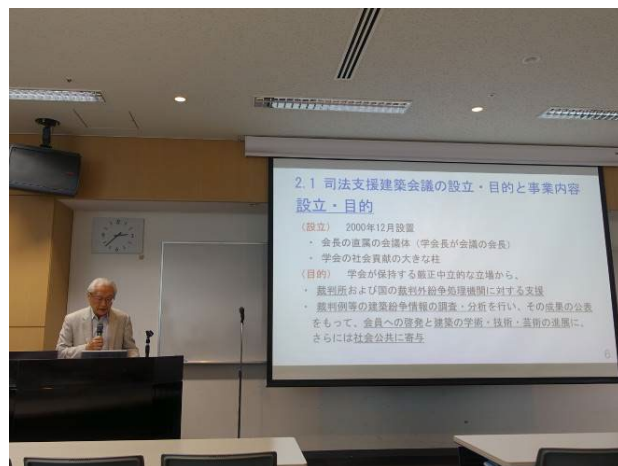
4) 第4回司法支援建築会議東北支部講演会

テーマ：最高裁判所建築訴訟委員会の活動について

講演者：吉野博（東北大学名誉教授／司法支援建築会議委員長ならびに東北支部運営委員長）

参加者：52名

- ・毎年、支部総会の前に開催していたが、今回初の試みとして「みちのくの風」のプログラム内にて実施した。
- ・司法支援建築会議の発足から現在に至るまでの経緯、ならびに最高裁判所建築訴訟委員会の活動と最近の話題等が紹介された。



5) 2024年度日本建築学会東北支部通常総会ならびに功労者表彰式・終身会員紹介・設計競技支部入選者紹介

参加者：64名

- ・今年度初めて、支部研究報告会「みちのくの風」との同時開催とした。

6) 第44回東北建築賞表彰式ならびに受賞記念講演会

参加者：64名

- ・毎年、支部総会との同時開催であったが、初めて「みちのくの風」にて実施した。記念講演会に学生が参加でき、受賞作品設計者の考えや作品への思いを直接知る機会となったことは有意義であった。
- ・久しぶりの受賞となった業績賞の記念講演会は、いずれも歴史分野研究者で、長年着実に積み重ねてこられた研究実績をお話され、非常に充実した内容であった。



日本建築学会東北支部、日本建築学会災害委員会
共 催：日本建築家協会北陸支部

○背景・目的

「みやぎボイス」は、年に1回、東日本大震災からの復興に関わる様々な立場の方々が一堂に会して議論することで、震災復興の現在を確認し、地域の課題を共有する場として機能してきた。今回は、2024年1月に発生した能登半島地震に関する復旧・復興について、東日本大震災時の経験を踏まえた議論を進めたいと考え、「第1回のとボイス」を開催した。

○内容と成果

例年みやぎボイスでは「ラウンドテーブル」という議論形式により、立場を超えたフラットな関係性のもと、本音で議論してきたが、今回金沢での開催にあたり、3テーブル同時の議論開始ではなく、1テーブル3ラウンドで連続的に議論する形式を採用した。各ラウンドの議論テーマは以下の通りである。

ラウンド1 「なりわい・文化・コミュニティ…大切にすべき能登の価値」

ラウンド2 「いかに残し、いかに活用するか？」

ラウンド3 「被災地でこれから課題となるもの」

○成果について

これまでみやぎボイスに登壇いただいた方や運営に携わってきた者も多く参加し、能登の現状と今後の課題について多彩な議論を展開することができたとともに、長年にわたるみやぎボイスでの経験を踏まえ、復興に際して今後展開が予想される事象や乗り越えるべき障壁などを議論し、多様な意見交換と示唆に富む知見の共有ができた。当日は複数の新聞社の取材と、NHKによる報道（全国放送）があった。

2) 日本建築学会東北支部「津波のひなん方法を考える」第2回シンポジウム（津波に強い建築を活用した津波減災を考える）

日本建築学会東北支部
「津波に強い建築を活用した津波減災研究委員会」
委員長 田中礼治（東北工業大学名誉教授）
副委員長 船木尚己（東北工業大学教授）

7) 第10回建築デザイン発表表彰式

参加者：64名

- ・懇親会場にて表彰式が進行され、発表賞をホームページ上で公開した。

8) 懇親会

参加者：64名

- ・前回対面開催時と同様、一般料金3,500円、学生料金2,500円として開催した。
- ・参加者は、一般62名・学生2名。前回対面開催の2019年度実績と比較すると、参加者数は34名増（一般35名増・学生1名減）であった。竹内会長をはじめ東北建築賞受賞者やその家族も出席され、和やかな懇親会であった。

5年ぶりの対面開催を契機に支部総会等と併合し、充実した新たな「みちのくの風」の姿となった。研究者同士の交流が深まり、広域な東北支部における「みちのくの風」の意義が再確認された。また、初の試みとして学会大会に倣い、民間業者のブース出展も行われた。最後に、会場運営において岩手県立大学鈴木真歩先生及びアイーナキャンパス関係各位にお世話になった。また、大会の企画・準備・運営・実施にご協力いただいた関係諸氏に、この場を借りて御礼申し上げる。

(2) 災害委員会市民企画報告

1) 震災復興シンポジウム「第1回のとボイス 既存ストックのゆくえと能登の未来」

櫻井 一弥

○企画概要

開催日：2025年2月2日（日）12：30～18：30

会 場：金沢みらいのまち創造館（リモート併用）

参加者：228名（うち、82名はオンライン参加）

主 催：のとボイス連絡協議会（能登復興建築人会議
NPO 法人趣都金澤、みやぎボイス連絡協議会）

1) 開催日時

2024年9月7日（土）10：00～11：30

2) 会場

せんだいメディアテーク7階スタジオシアター

3) 参加者

34名

4) シンポジウムの発表演題

① 齋藤徳美 氏【岩手大学・名誉教授】

テーマ「津波のひなん方法を考える～久慈市「消防士は『避難目標時点』へ、啓発と先導を」

② 井上 剛 氏【旧山元町立中浜小学校・元校長】

テーマ「学校建築と津波ひなんを考える～震災を乗り越えて～避難を決断することは」

5) シンポジウム概要報告

今回の第 2 回「津波のひなん方法を考える シンポジウム」専門家の方と津波ひなんを体験された方にご登壇いただき、ご講演を戴いた。

① のテーマでは、専門的な見地から地方自治体との連携による津波ひなんの啓発・先導などの取り組みについてご講演を戴いた。

② のテーマでは、震災当時学校長で津波被害を実際に経験された貴重なお話を交えたご講演を戴いた。

各発表終了後、フロアからの質問と講演者による質疑応答があった。

① (仙台市で活動している現役の防災士からの質問)、避難所運営委員会(中学校区単位の自主防災組織)についての質問で、自主防災組織のトップは地域の町内会長などがされており、防災士などの意見がなかなか通りにくいのが現状ですが、岩手県などでは如何ですか？(回答)全国的に自主防災組織のトップリーダーは高齢の方が多く、なかなかリーダーシップがとれていない地域が多く、高齢化が進んでいるのも原因の一つであり、自主防のノウハウが継承されていない問題。せっかく防災士がいても、活躍できにくい現状があるとのことでした。市町村の担当者も長くて 3 年で変わり、ノウハウが継承されにくいのが現状。「自治体と地域の連帯および防災士など専門家との連携を継承してゆく」ことが大事であるとお話でした。

② 講演の中で体育館が大きな損壊を受けていたが、建物が海岸近くに建っていた事もあり、海岸の暴風(砂)林が根こそぎなぎ倒されて流され瓦礫となり、津波とともに凶器となり、建物を破壊していった。先生は大きな備えをしても個々人の「危機意識があることが災害に備えとして一番大事」なことだと経験から確信したと話していました。



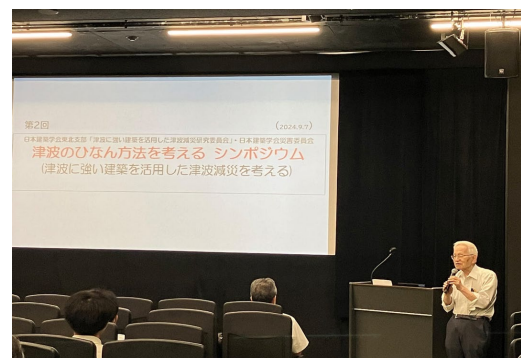
船木尚己氏 総合司会ならびにディスカッションの様子



井上 剛 氏 講演の様子



齋藤徳美氏 講演の様子



田中礼治氏 ディスカッションならびに閉会の挨拶

(3) 2024 年度親と子の都市と建築講座

1) 岩手会場

“組手什(くでじゅう)”で小さな家具づくり

菅原 正則
青笹 健

日時：2024 年 11 月 2 日（土）13:30～15:30

場所：岩手県立大学滝沢キャンパス短期大学部棟 101 講義室（製図室）

主催：日本建築学会東北支部 環境工学部会

講師：青笹健（岩手県立大学）、菅原正則（宮城教育大学）

参加者：24 名（9 家族）

学生スタッフ：2 名

「明日は筋肉痛確定です。」

組手什は、自分の手ではめ込むだけで家具を組み立てることができる木材で、木工の初心者に適しています。材料をのこぎりで切り、ハンマーで叩いて組み立てるのですが、見出しのような充実感のある言葉が実施後アンケートの自由記述欄に書かれていました。製作前の説明では、間伐材利用の意義やカーボンニュートラル、ウッドマイレージにも触れ、環境問題についても考えてもらいました。講座の内容については「大変満足」7 名、「満足」3 名との評価が得られました。



組手什の切断箇所印をつけます

2) 宮城会場

“組手什(くでじゅう)”で小さな家具づくりと椅子の組み立て体験

菅原 正則

日時：2025 年 1 月 25 日（土）10:00～12:00

会場：宮城教育大学 技術棟 木工室

主催：日本建築学会東北支部 環境工学部会

講師：菅原正則（宮城教育大学）

参加者：17 名（7 家族）

学生スタッフ：2 名

「自分で作ったという自信になった。」

今年度 11 月 2 日（岩手県立大学）開催の内容は、組手什でおもちゃ棚／卓上ブックスタンドを各自製作するものですが、今回はそれに加えて 2 種類の椅子を参加者が協力して組み立てました。椅子は、講師が設計したもので、はじめ組み立てられていたものをばらして、組手什の部品にしてから再び椅子の形にしました。実施後アンケートに書かれていたのは、見出しの言葉のほか、「CO₂ 排出量など環境問題の話が勉強になった」などでした。講座の内容については「大変満足」9 名、「満足」1 名との評価が得られました。



製作したおもちゃ棚／卓上ブックスタンドとみんなで組立てた椅子

3) 秋田会場

茅葺き小屋を作ろう！

秋田支所 李 雪

日時：2024 年 11 月 4 日（月・祝日）9:45～12:00

会場：秋田市文化創造館 屋外スペース

主催：日本建築学会東北支部秋田支所

講師：佐藤偉仁、千葉美緑（佐藤茅葺店）

参加者：20 名（年長から小 4：10 名、保護者：10 名）

スタッフ：4 名

ワークショップの趣旨と概要

茅葺き屋根は、日本の民家や社寺の屋根として気候風土に適応し、地域ごとに多様な農村景観を形成してきた。秋田支所では、こうした茅葺き屋根の魅力を子どもたちに伝えるため、茅葺き職人とともに身近な草で茅葺き小屋を作るワークショップを開催した。当日、職人による茅葺き屋根の形、茅葺き屋根に使用される草の種類、施工時に使用する道具について説明が行われた。その後、参加者全員で協力しながら茅を運び、縄を使ってしっかりと

骨組みに固定した。さらに、ガンギで茅の形を整え、本格的な茅葺き作業である「針とじ」も体験した。また、大きなハサミを使って茅を切る

作業にも挑戦し、最終的に、縄文時代の竪穴住居を思わせる茅葺小屋が完成しました。子どもたちからは楽しかった！お家でも作ってみたい！といった喜びの声が寄せられた。



ワークショップ当日の様子



ワークショップ開催の様子

4) 福島会場

やさしい建築 折り紙建築ワークショップ

福島支所長 星 剛

日時：2024年7月20日（土）13:00～15:00

会場：福島県教育会館

主催：日本建築学会東北支部福島支所

講師：五十嵐 暁浩 氏

参加者：5組10名の親子

スタッフ：6名

「ワークショップ」について

「折り紙建築」の制作を通じ、建築のデザイン等を楽ししく知り、身近に感じてもらうことで、建築への興味の醸成を図ることを目的として、小学生の親子を対象に開催した。

講座では、はじめに講師がティッシュボックスなど身近な箱で長方形断面が折り畳めることや飛び出す絵本のように立体化する仕組みを解説し、折り紙建築の仕組みや制作手順を説明した。

その後、参加者には講師が用意した福島県内に実在する福島県教育会館など3つの建物をモデルとした折り紙建築の制作に取り組んでいただいた。参加者は、実際に訪れたことのある建築物を思い浮かべながら制作することで、新たな発見を得るなど建築デザインに触れながら、各々の作品を見せ合い、完成した喜びを共有していた。

本講座の開催に当たり、御協力いただいた関係団体及び関係者の皆様に深く感謝申し上げます。

2024年度司法支援建築会議東北支部活動報告

運営委員長 吉野 博（東北大学名誉教授）

司法支援建築会議の東北支部は2019年4月1日に設立され、今年で6年目を迎えた。設立の年の5月11日に東北支部発足記念講演会を開催し、その後、毎年、支部総会の際に講演会を実施してきた。但し、2024年度は、速水清孝前東北支部長の提案で「みちのくの風2024盛岡」の関連行事として開催した。52名の参加者があり、好評であったことから、今後も「みちのくの風」の関連行事として開催することとした。また、運営委員会を適宜開催し、司法支援に関する情報交換を行っている。以下、2024年度の活動について報告する。

1. 講演会の開催

2024年5月13日に、日本建築学会司法支援建築会議東北支部第4回講演会を開催し、「最高裁判所建築関係訴訟委員会の活動について」と題して、吉野が講演した。講演では、最高裁判所建築関係訴訟委員会の発足の背景、創設時から今日までの動き、「建築関係訴訟委員会答申」の内容、近年の主な議論などについて報告した。会場からは、このような組織について知る機会がなかったことから、意義のある話が聞けたなどの意見があった。

2. 運営委員会

運営委員会は本年度2回開催した。第15回（2024年11月8日）では、①第13回建築紛争フォーラム「高層・超高層建築をめぐる建築紛争の現状と課題」の報告、②仙台地方裁判所との意見交換の報告、③建築紛争事例の紹介（板垣直行委員）、④「新築・リフォームにおける苦情相談とリフォーム詐欺から消費者を守る」と題する話題提供（高橋清秋委員）、⑤次年度の講演会の企画に関する議論があった。第16回（2025年2月28日）では、議題として、①第24回司法支援建築会議講演会の報告、②欠陥住宅東北ネットとの情報交換の報告があった。また、③次年度の講演会は、2025年6月21日に開催し、

「東北地方における近年の建築関係紛争について」として仙台地方裁判所大塚博喜判事による基調講演と「建築関係紛争の今日的な課題について」と題するパネルディスカッションの構成で開催することとした。

2024 年度支部研究補助費活動報告

建築デザイン教育部会
部会長 櫻井 一弥

2011 年 3 月の東日本大震災よりまもなく 14 年を経過するところであるが、我が国ではその後も多くの自然災害が頻発し、様々な課題が浮き彫りとなっている。2024 年初頭にも能登半島での大規模な地震と津波が発生し、現在も被災者は避難所での苦しい生活を強いられるなど、本格的な復興には未だ長い道のりが想定されている。

本研究では、これまで部会委員が多く関わってきた東日本大震災復興シンポジウム「みやぎボイス」で蓄積された知見を生かし、能登半島地震をはじめとする様々な自然災害からの復興における諸フェイズにおいて、「みやぎボイス」で得られたネットワークやノウハウをどのように活かせるか、関連諸団体と一緒に考察することを目的とした。

「みやぎボイス」は、年に 1 回、東日本大震災からの復興に関わる様々な立場の方々が一堂に会して議論することで、震災復興の現在を確認し、地域の課題を共有する場として機能してきた。震災後の宮城県・東北地方における建築やまちづくりに関して、単なる復旧・復興にとどまらない、新たな地域づくりのための意識の共有や、異なる専門家同士の連携が大きな課題になっている。今回は、2024 年 1 月に発生した能登半島地震に関する復旧・復興について、東日本大震災時の経験を踏まえた議論を進めたいと考え、「のとボイス」を 2025 年 2 月 2 日（日）に開催した。みやぎボイスのプラットフォームを活かし、能登半島地震にその記録と検証をどのように活かせるのか、また今後予想される様々な出来事にどのように対応していけば良いのかなどについて、現地で活動している方などと議論し、今後の復興まちづくりと人づくりに活かして行く場をすることを期待した。

例年みやぎボイスでは「ラウンドテーブル」という議論形式により、立場を超えたフラットな関係性のもと、登壇者も聴衆も一体となった課題の共有と気づきを与える場として実施してきた。今回金沢での開催にあたり、復興状況などについて現地の方々と議論を重ねた結果、みやぎボイスで継続的に実施してきた 3 テーブル同時の議論開始ではなく、1 テーブル 3 ラウンドで連続的に議論する形式を採用した。また、リモート併用とし、一般参加者が参画しやすい開催形態を模索した。各ラウンドの

議論テーマは以下の通りである。

ラウンド 1 「なりわい・文化・コミュニティ…大切にすべき能登の価値」

ラウンド 2 「いかに残し、いかに活用するか？」

ラウンド 3 「被災地でこれから課題となるもの」

これまでみやぎボイスに登壇いただいた方や運営に携わってきた者も多く参加し、能登の現状と今後の課題について多彩な議論を展開することができたとともに、長年にわたるみやぎボイスでの経験を踏まえ、復興に際して今後展開が予想される事象や乗り越えるべき障壁などを議論し、多様な意見交換と示唆に富む知見の共有ができた。

当日は複数の新聞社の取材と、NHK による報道があった。研究補助費を有効に活用し、時宜に適った企画が開催できたと考えている。

第 45 回東北建築賞作品賞選考報告

選考委員長 櫻井 一弥

1. 応募作品

・小規模建築物部門	8 作品
・一般建築物部門	17 作品
計	25 作品

2. 選考経過

(1) 事前打ち合わせ会議

2024 年 9 月 13 日（金）10：30～11：07

於 オンライン（Zoom）

選考委員長の選出、東北建築賞作品賞募集要項、選考委員会規則などを確認した上で、応募作品の数とその内訳を確認した。東北建築作品発表会の運営方法及び東北建築賞作品賞の選考基準などについて事前打ち合わせを行った。

(2) 東北建築作品発表会

2024 年 10 月 5 日（土）9：50～15：05

於 オンライン（Zoom）

第 34 回東北建築作品発表会において応募された作品の発表が行われた。アフターコロナであるが、東北地方に建設された建築物を全国の人に知っていただくことを目的にオンラインで開催した。限られた発表時間の中でそれぞれのコンセプトが紹介され、発表会は全体として滞りなく進められ終了した。時間厳守にご協力いただいた発表者、諸氏に敬意を表したい。

(3) 第 1 次審査会

2024 年 10 月 5 日（土）15：30～16：30

於 オンライン (Zoom)

東北建築作品発表会終了後、現地審査を行う必要のある作品を選定することを目的として、第1次審査を行った。小規模建築物部門と一般建築物部門を別々に選考せず、全作品の中から一人10票以内で投票した。各委員の投票および発表内容を総合的に考慮した結果、小規模建築物部門2作品、一般建築物部門10作品、合計12作品を第1次審査通過とした。

次に、現地審査は1作品につき2名以上の選考委員がこれに当たることを確認し、選定された12作品について現地審査の分担を決め、現地において確認すべき点を検討し、施設管理者との連絡を含めた現地審査の日程調整は事務局を通して行うこととした。

なお、1次審査の落選者へは200字程度の講評を選考委員分担で作成し、選考委員会として送付することを確認した。

(4) 現地審査

現地審査については11月と12月に選考委員で分担して実施した。

(5) 第2次審査会

2025年1月25日(土) 13:00~16:30

於 日本建築学会東北支部会議室

櫻井委員長より全体の進め方の確認と、事務局から内規の確認があった。また討議により、各委員の投票数は最大6票、かつ1作品1票とすることを決定した。

その後、1作品ずつ現地審査担当委員からスライド資料等により報告がなされた後、ほかに現地を確認した担当委員からも印象や評価すべき点が報告された。報告を受けて、それぞれの作品ごとに、審査の評価ポイント等についての討議を参加の委員全員で行った。すべての作品の紹介と討議が終わった後に、出席の全委員による投票を行った。

投票の結果、作品賞は一般建築物部門から3作品、小規模建築物部門から1作品の合計4作品が選定された。特別賞は一般建築物部門から2作品、新人賞は一般建築物部門から2作品が選定された。

(6) 総評

小規模建築部門、一般建築部門ともに、様々な用途と多彩なデザイン・アプローチによる多くの作品に応募いただき、充実した選考となりました。応募いただいた設計者・施工者の皆様に篤く御礼申し上げます。

今回選考を経て選定された作品賞4点は、振り返ってみるといずれも利用者や地域住民との丁寧な意見交換・ワークショップなどを経て実現され、完成後も生き生きとした空間としてよく利用されている作品であることが特徴的でした。とは言え、住民の意見などをそのまま形にしたということではなく、それらを踏まえて建築空間

に落とし込み、質の高い作品としてまとめている点、いずれも秀逸であったと思います。

特別賞の2作品は、建築作品としての質の高さのみならず、その作品を成立させている社会的な状況に深く切り込み、建築としての回答を提示している点が大変印象的でした。

これらの受賞作が今後の東北の建築文化を向上させる一つの契機となれば幸いです。

(7) 選考結果

「作品賞」 4 作品

小規模建築物部門

会津柳津駅駅舎情報発信交流施設

【施 主】柳津町

【所 在 地】福島県河沼郡柳津町大字柳津字下大平甲610-7

【設計監理】株式会社TIT 富沢真二郎、池田晃一、
田中大朗、安部遥香
構造設計/TS 構造設計 佐藤岳人
設備設計/電気設備:エレクトリックプラン
星忠光

機械設備:ハツ橋設備 城戸陽一

【施 工】滝谷建設工業株式会社

一般建築物部門

NIPPONIA 白鷹 源内邸

【施 主】株式会社ukitam

【所 在 地】山形県西置賜郡白鷹町大字浅立

【設計監理】株式会社井上貴詞建築設計事務所

【施 工】那須建設株式会社

一般建築物部門

さくらんぼこどもキャンパス

CLAAPIN SAGAE

【施 主】寒河江市

【所 在 地】山形県寒河江市八楯川原919-6

【設計監理】建築/羽田・NIIZEKI 特定建設業務共同体
(株式会社羽田設計事務所)
水戸部裕行 地主愛子 小松祐大
(株式会社 NIIZEKI STUDIO)
新関謙一郎 加藤忠弘
構造/株式会社木下洋介構造計画
木下洋介 小針匠
株式会社ディックス 田村尚土

電気／鈴木電気設計事務所

鈴木清晃

機械／連設備設計事務所

佐藤章

【施 工】建築／高木・シェルター特定建設工

事共同企業体（株式会社高木、株
式会社シェルター）

電気設備／東北電化工業株式会社

機械設備／株式会社 KOEI

一般建築物部門

認定こども園 らみどり

【施 主】学校法人熊田学園

【所 在 地】福島県須賀川市緑町 1-1

【設計監理】建築／はりゅうウッドスタジオ

構造／TAPS 建築構造計画事務所

設備／ZO 設計室

照明／ぼんぼり光環境計画

ランドスケープ／STEP

園庭・設計 ワークショップ・監修

／石田佳織

ワークショップ協力／日本大学工学部

浦部智義研究室

【施 工】王子建設株式会社

「特別賞」 2 作品

一般建築物部門

白鷹まちづくり複合施設

（白鷹町役場・図書館）

【施 主】白鷹町

【所 在 地】山形県西置賜郡白鷹町大字荒砥甲833

【設計監理】建築：環境デザイン研究所

構造：山田憲明構造設計事務所

設備：イーエスアソシエイツ一級建築士
事務所、大瀧設備事務所

外構：山栄測量設計

【まちづくり複合施設、エネルギー棟、書庫棟、車庫棟】

那須・鈴木JV

【防災倉庫棟】丸ト建設

【電 気】東北電化工業

【機 械】飯鉢工業

一般建築物部門

風をつなぎ、森をめぐるヴィラ

【施 主】社会福祉法人あいの実 理事長 乾祐子

【所 在 地】宮城県仙台市泉区西田中松下23

【設計監理】有限会社都市建築設計集団/UAPP

構造設計／皆本建築工房 皆本功

機械設備設計／内外設備設計 高橋十悦

電気設備設計／アイワ企画事務所 高橋守

【施 工】株式会社市村工務店

「作品新人賞」 2 名

作品名：青森市新市庁舎

小寺 亮 （株式会社佐藤総合計画）

作品名：東北学院大学 五橋キャンパス

古川 侑慧（株式会社佐藤総合計画）

(8) 講評

作品賞

【会津柳津駅舎情報発信交流施設】

本駅舎は、JR 東日本から町が購入したことを契機に、駅舎機能はもちろん、倉庫となっていた駅舎の半分を地域の活動拠点となるカフェやワークショップスペースなどの交流スペースに改修した駅舎です。赤べこは会津柳津町が発祥の地とされており、ここでは赤べこの製作体験もできます。建物ができるまでには多くのワークショップを地域住民と行ったことで住民との協力体制が形成され、本施設の運営に生かされています。外装は、新築当時の写真を調査したり、住民に対して聞き取り調査をするなどして、当時の記憶にあった駅を再現しています。JR 東日本との所有区分の分筆ラインがあることで、建物への制約もありながら新しい庇やベンチスペースなど、制約を感じさせない豊かなホームスペースを実現しています。この駅舎ができたことで、只見駅からこの駅まで電車を利用して紅葉などを見物した観光客を、観光バスにて回収する拠点にもなり、かならず観光客が立ち寄る駅となっていることで賑わいが生まれ、可能性を感じる魅力を持った駅舎づくりが評価されました。以上のような点から、東北建築賞作品賞に推薦されました。

【NIPPONIA 白鷹 源内邸】

NIPPONIA 白鷹源内邸は、既存の歴史的建造物をホテルにリノベーションした意欲作です。旧所有者の奥山家は、宝暦年間の初代高橋源内からはじまる豪農で、功績碑が建立されるほど地域の発展に尽力しました。源内邸は、

約 8000 平米の広大な敷地内に明治中期から大正初期頃に建てられた複数の建物で構成され、庭木や竹林、池や石畳など、当時の豪農の屋敷構えを遺しています。主屋、書斎、土蔵 4 棟の歴史的建造物を含む計 7 棟を改修し、8 つの客室とダイニングに用途を変更しています。改修は、便所・風呂等の水回りや消火設備等の新設、内壁の美装化など極めて限定的で、屋根や外壁は補修とするなど、建物本来の魅力を最大限に活かすよう工夫しています。外構には、白鷹町で明治期以降流通した凝灰岩の高畠石を多用して農村景観を積極的に整備し、客室に開口部を設けて竹林を望む等、周囲の景観を空間に取り込む演出も際立ちます。改修時の地域住民との連携や協働は、源内の地域貢献とも合致し、地域史の継承にも寄与しています。歴史的建造物と地域固有の農村景観を踏まえた独自の滞在空間の創造が高く評価され、東北建築賞作品賞に推薦されました。

【さくらんぼこどもキャンパス CLAAPIN SAGAE】

山形県寒河江市に位置するさくらんぼこどもキャンパスは、開館以来市内外から多くの来館者が訪れ、日々こどもの賑わいに溢れた施設となっています。一見するとやや閉鎖的な印象を与える部分もありますが、遊具となるツリーを中心に広がる大きなヴォリュームと、中心に向かってすり鉢状となる起伏は、明るく開放的で施設全体がこどもが遊べる場として機能しています。また中心に向かって傾斜するヴォイドは、こどもの遊具であるとともに、それを見守る保護者から俯瞰できる空間となっており、適切なスケール感が設定されています。そして、特異な平面形状により生み出されるニッチな空間は、工作やワークショップスペースとなるなど、遊びが発展する場としてデザインされています。また周辺環境の起伏と連続するような屋根形状と軒の高さを考慮し、ランドスケープについても一定の工夫が見られました。3次元で変化する屋根形状など、BIM を前提とした建築生産プロセス全体を通じた連携を実現し、設計のフィードバックと事業全体のコストマネージメントにも積極的に取り組んだ点も評価に値します。以上の点から、高い評価を得て東北建築賞作品賞に推薦されました。

【認定こども園 らみどり】

発注者から、自然を生かした森の幼稚園のような保育環境を作りたい、という要望を受け実現した認定こども園です。敷地は小高い起伏のある丘陵地であり、建物は起伏のある地形に寄り添うように、S 字のカーブを描き、高低差のある地形にゆるやかなスロープで合わせた建物となっています。地形と建物が寄り添い、一体感を感じられる作りになっていると評価できます。また、既存の桜の巨木を残し、建物には大径木を使用した三角屋根がリズムカルに並び、この地域の風土を感じられる森のような保育環境を作り上げています。各保育室の内観は、縦ログと三角形の屋根で構成され、前後の大きな開口か

ら視野が広がり、気持ちの良い空間が広がっています。地形に寄り添った建物を作るために S 字の平面形状とし、高低差を処理するにあたっては、床のレベルや屋根の形状を変え、それでいて違和感のない建物を作り上げています。こうしたことが高く評価され、東北建築賞作品賞に推薦されました。

特別賞

【白鷹まちづくり複合施設（白鷹町役場・図書館）】

白鷹町は、町土の約 65% が森林ですが、外国産材の輸入拡大などを受け、手付かずの森林が増えていました。そこで町は、森林経営、木材の製材や流通、木材の利用促進の一体的な活性化に着手しました。町役場を含むこの複合施設では、町内の生産能力に合わせ、柱や梁に用いる製材の寸法を限定したり、民間の出資により木材乾燥施設を完成させたりしながら、まさに町が目指していた森林・林業・木材産業の川上から川下までの活性化を体現しており、この点を高く評価し、特別賞の受賞となりました。複合施設は、耐火構造のコアを複数挟むことで、庁舎全体の木造化を実現していることが特徴です。また、大会議室や議場の大架構も迫力があります。さらに、この施設の最大の魅力は、エントランス近傍の町民ラウンジです。敷地の高低差を町民ラウンジ周辺で解消しており、周遊すると立体迷路のような楽しさがあります。町民ラウンジには杉の香りが漂い、休日にも多くの町民が集っています。ワークショップを通して丁寧に町民の声を拾い上げた成果であると評価できます。

【風をつなぎ、森をめぐるヴィラ】

本計画は、従来医療と児童福祉の社会的な狭間となっていたニーズに対して、医療型児童デイサービスのサテライトを目指したプロジェクトです。仙台市北部の郊外に実現したこの施設は、機能別のゾーニングを踏まえた中庭を囲むシンプルな構成でありながら、外部と内部をつなげる水平方向の開放性や周辺環境とのレベル差、開口部周辺のデザインなどの工夫が随所に見られます。障碍を有する利用者へのケアの空間として、様々な計画的配慮が為されているとともに、同伴する家族の視点と使い方にも注意が払われています。隣接するカフェを計画することによる保護者の送迎時の滞在や就労の場を確保しようとしている点などは新しい試みと言えます。そして、これらの計画の背景には、設計者と運営者との綿密なコミュニケーションにより、汲み取るべきニーズと実際の運営時における課題を設計にフィードバックするプロセスも重要な意味を有しています。以上、今後の医療・福祉社会の一つのモデルとなりうる可能性を感じさせることから、東北建築賞特別賞に値する評価となりました。

作品新人賞

【小寺 亮（株式会社 佐藤総合計画）】

既存の議会棟を活かして増築された低層の建築であり、リズムよく配置されたスクエア窓がのびのびとした印象を与えています。1 階のサードプレイスは、季節を問わず市民の憩いの場として賑わい、市民協働を体現したスペースとなっています。本プロジェクトは、もともと全面建替えの前提で設計が完了していたところ、社会状況の変化によって設計し直したものと伺いました。対象者は、このプロセスに一貫して関わり、担当者として粘り強く対応されています。その努力・力量と、建築の質の高さに鑑み、東北建築賞作品新人賞にふさわしいと評価します。

【古川 侑慧（株式会社 佐藤総合計画）】

仙台市泉区にあった教養学部と多賀城市にあった工学部の移転・一体化を目的として整備された都市型キャンパスです。4 つの大きな建物を屋根付き歩廊「TGU リング」で結び、メインの活動フロアである 2 階を活気づけながら回遊性に寄与しています。6 万㎡を超える建築群であり、各棟に設計担当者が配置されていますが、対象者は基本設計から監理まで中心的に関わり、全体をとりまとめつつ、発注者と施工者への窓口としての役割を担っています。担当者としての努力と、豊かな空間の創出に係る実績により、東北建築賞作品新人賞にふさわしいと評価します。

第 45 回東北建築賞作品賞選考委員会

選考委員長

・櫻井 一弥 東北学院大学工学部環境建設工学科

委員

・日比野 巧 日本大学工学部建築学科

・菊田 貴恒 東北工業大学建築学部建築学科

・西脇 智哉 東北大学大学院工学研究科都市・建築学専攻

・坂口 大洋 仙台高等専門学校総合工学科

建築デザインコース

・小地沢将之 宮城大学事業構想学群

・長田 城治 郡山女子大学家政学部生活科学科

・青笹 健 岩手県立大学盛岡短期大学部生活科学科

生活デザイン専攻

・中山 武徳 (株) 中山建築研究所

・進藤 勝人 (株) 八洲建築設計事務所

・後藤 伴延 東北大学大学院工学研究科都市・建築学専攻

「竹駒神社馬事博物館を始めとする社殿及び境内に関する一連の調査及び修復整備事業」

受賞者 竹駒神社

竹駒神社は承和 9 (842) 年の草創と伝えられる古社である。本殿、幣殿、拝殿は平成 2 年に放火により焼失したが、その後ただちに社殿は復興された。また、焼失を免れた唐門、楼門、境内社などの古建築に対しては、将来的な保存と活用を視野に入れた継続的な調査・保存修理を行うことを目的として事業が展開された。その結果、平成 31 年に唐門が県指定文化財に、令和 2 年に境内社三社（愛宕神社、八幡神社、総社宮）が岩沼市指定文化財となった。その後、令和 3 年に馬事博物館（昭和 13 年竣工）が国の登録有形文化財となった。

これらの事業の成果は報告書としてまとめられ、特に『竹駒神社馬事博物館建物調査整備報告書』では、設計者や設計監理者などの組織、戦前期の日本趣味的な建築様式、物資不足のなかでの構造や内外装の仕上げ、建具や家具について、総合的に、科学的に、しかも緻密に調査された成果が報告されている。さらに旧近江セールズ社製の建物金具の使用が示されるなど、我が国建築の近代化の一端が明らかにされ、各方面から大きな注目を集めた。

竹駒神社におけるこうした一連の事業は、歴史的建造物の保存のみならず、市の中心部に位置する境内地を都市景観の美化や活性化にもつなげようとするもので、その過程で明らかにされた建築的様相は当該学術分野に大きく寄与するものである。

以上より、本業績は東北建築賞（業績賞）に値すると認める。

「福島県の文化財的建造物の保存管理に関する業績」

受賞者 三浦工匠店

三浦工匠店を昭和 46 年に創業し、現在は取締役会長である三浦藤夫氏は、これまで 50 年にわたって、全国を対象とした「日本建築セミナー」の二級建築士・学科 WEB コースの講師として、木造建築在来工法に関する継手仕口の実践について後進の指導にあたってきた。また、福島県内の伝統的建築物の状況を日々確認している。昭和 63 年に二代目社長に就任した三浦慶顕氏は、父の意思を継ぎ古建築の復原修復に努めている。さらに在来工法を後世に伝えるべく、日々研鑽を重ねている。その証とし

て、平成 27 年の「県建築文化章 復興賞」を皮切りに、数々の受賞をするに至っている。

具体的な事例としては、旧亀岡家住宅の補修工事や、梁川八幡神社の復元改修工事などが挙げられ、その範囲は多岐に及ぶ。このように親子二代にわたり地域の伝統をまもるべく、文化的土壌を保全すべく、その中心的立場として活動している姿勢は、ヘリテージ・マネージャーの参考とすべき活動として称讃に値する。

以上のように、福島県の古建築の保存管理に長年に

第 45 回東北建築賞業績賞選考報告

選考委員長 飛ヶ谷 潤一郎

わたって多大な貢献をしたことから、本業績は東北建築賞（業績賞）にふさわしいと判断した。

第45回東北建築賞業績賞選考委員会

委員長：飛ヶ谷潤一郎

委員：浅里和茂、石山 智、有川 智、浦部智義、
村上早紀子、赤井仁志、後藤伴延

第45回東北建築賞研究奨励賞選考報告

選考委員長 五十子 幸樹

論文：慣性質量効果を有する液流ダンパーの抵抗力特性
(その1)実験的考察 / (その2) 解析的検証
受賞者：高橋 辰弥（東北工業大学 修士課程）

本年度（2024年度）の研究奨励賞への応募論文は、構造分野において高橋 辰弥氏（東北工業大学修士課程）から提出された「慣性質量効果を有する液流ダンパーの抵抗力特性(その1)実験的考察/(その2)解析的検証」の1件であった。

本論文は、細管内を高速で通過する液体が発揮する粘性抵抗と慣性質量効果を活用して地震時における建物の応答を低減する振動制御装置に関するものである。このような装置は fluid inerter として現在では国際的にも広く研究されているが、日本において本会の川股重也博士らが1970年代の早い段階に提案したものである。候補者の研究はこの研究の流れを汲むものとなっている。

候補者が検討対象とした「慣性質量効果を有する液流ダンパー」は、既往研究において inerter の実装方法として提案されているボールねじ機構、ラック・ピニオン機構等と比べても機構が単純であり、また、連結管形状の操作により粘性抵抗力と慣性抵抗力(inertance)を同時に調整できることに利点がある。候補者は、試作した縮小試験体単体に対して正弦波加振実験を行い、提案装置が発揮する粘性抵抗力と慣性抵抗力を精度良く再現する力学モデルを構築している。成果は本会東北支部報告集に加えて世界地震工学会議においても発表し評価を得ている。

欠席委員から事前に提出された報告書の中には、候補論文において既往研究との関係性における研究の位置づけが不明快であること等について指摘があったが、出席委員による議論では候補論文に近い専門分野の委員からの補足説明があり、また、若手研究者に広く受賞の機会を与えるという奨励賞の趣旨に沿う形で候補者の受賞に肯定的な意見が主流であった。

以上より高橋氏の研究について、出席委員の評価と他委員による事前報告書の内容とを併せて集計した結果は、委員8名がすべて合格、欠席委員からの事前報告においては2名が合格、3名が出席委員の判断に一任という結果であり、本論文が研究奨励賞に相応しい業績であることを承認した。

第45回東北建築賞研究奨励賞選考委員会

委員長：五十子幸樹

委員：西田哲也、齋藤俊克、権代由範、寺本尚史、
菊池義浩、荻谷智大、小幡智之、野村俊一、
石田泰之、長谷川麻子、小地沢将之、山本和恵

第34回東北建築作品発表会報告

常議員 後藤 伴延

2024年10月5日（土）に、オンライン（Zoom）にて第34回東北建築作品発表会が開催された。本発表会は、東北建築賞作品賞応募者に作品についてプレゼンテーションをして頂くものであり、作品賞の1次審査を兼ねると共に、学会と地域社会との交流の推進、建築関係者の研鑽、ならびに東北地方の地域特性に立脚した建築作品の探求を目的としている。本年度は小規模建築物部門8作品、一般建築部門17作品の合計計25作品であった。発表会においては、まず、松本真一支部長より挨拶があり、その後、櫻井一弥選考委員長により発表にあたっての注意事項が説明された。その後の発表では、1作品につき7分の短い持ち時間であったものの、設計者から作品のコンセプトやアピールポイントについて充実したプレゼンテーションが行われた。質疑応答も1分という短い時間ではあったものの、活発な議論がなされ、活気のある発表会となった。

参加者は延べ150名（重複なし109名）で盛会であった。今回は昨年度に引き続きオンライン開催となったが、事前の準備と参加者の協力によって滞りなく実施することができたと考えている。次年度以降の開催形式は未定であるが、今後も開催方式に関わらず、さらに関係団体、大学などを通じた積極的な案内を行い、より活気のある発表の場にするよう努めていきたい。

また、第34回東北建築作品発表会で発表された25作品と前回受賞した第44回東北建築賞作品賞と特別賞が掲載されている東北建築作品集2024を同日に刊行した。いずれも、近年の東北地方における建築活動の一端を示す貴重な建築作品であり、東北地方の建築にとっての共通課題の探求につながるものである。

日本建築学会「作品選集2025」東北支部 選考報告

東北支部選考部会長 安田 直民

「作品選集2025」の掲載選考にあたり東北支部には、25作品の応募があり、支部書類審査を経て13作品が現

地審査の対象となった。

現地審査は7月11日から8月6日にかけて、各作品について、設計者等立会いのものと2名の支部審査員によって行われた。現地審査を踏まえた支部審査会では8作品（Aランク4作品、Bランク3作品、Sランク1作品）を本部に推薦することにした。9月12日の本部の審査会では、事前の審査による投票結果をベースに、東北支部から6作品が掲載されることになった。

震災から14年たった今回も、震災関連作品の応募が見られる。復興が依然として大きな地域課題であることを示す一方、その多くが伝承や新たな地域産業への展開など、復興の先を見据えた作品として現れている傾向が見られた。

作品選集のアーカイブとしての価値のためにも、各作品2ページという掲載分量に加えて、提出される資料へのリンクなどの整備が望まれる。

2024年度 日本建築学会設計競技東北支部審査報告

審査委員長 小地沢 将之

今年度の設計競技は、「コモンズの再構築」をテーマとした。東北支部審査会は2024年7月8日（月）10:30～11:30に、審査委員5名によりオンラインで実施した。今年度の設計競技には15点の作品の応募があり、応募規程により最大5作品を支部入選として選出する必要があったことから、事前に各委員に作品データを共有したうえで、支部候補となるべき提案に対して各委員5点以内で事前投票を行った。

各委員の投票を集計した結果、No.1（1票）、No.2（5票）、No.4（2票）、No.5（3票）、No.7（4票）、No.9（2票）、No.10（1票）、No.12（2票）、No.13（2票）、No.14（1票）、No.15（1票）が得票したため、これらについて支部入選に値するか否かの協議を行った。まず、3票以上を獲得したNo.2、No.5、No.7の3作品を支部入選作品の候補とすることについて確認を行い、満場異議なく選出することにした。次に、得票1票以下の作品について、候補としないことを確認したうえで、得票2票の4作品について再度審査員で議論した。この結果、このうちNo.4とNo.9を支部入選作品として選出することとした。

支部入選の5作品は、水害で被災した町における災害との向き合い方（No.2）、放置竹林の整備を通じた居場所づくり（No.4）、木材の生産地と消費地の接続（No.5）、日本統治時代の台湾の風景や文化などの継承（No.7）、離島における資源サイクルと交流の場づくり（No.9）と

いった具合に、現実の社会課題に向き合うための空間の提案であり、優れた内容だった。選外の作品には、空間や場所を「共有」することのみに着眼したものが多く、選出された作品との差がみられた。

2024年度 第87回東北支部研究報告会報告

常議員 齋藤 俊克

2024年度東北支部研究報告会「みちのくの風 2024 岩手」は2024年6月22日（土）・23日（日）の両日、盛岡市のアイーナ岩手県民情報センターを会場に開催された。発表総数は計画系57題、構造系22題の合計79題と昨年度比17題の増加であり、久しぶりの対面開催（前回の対面開催は2019年度）が多くの投稿数に繋がったと考えられる。初日は3会場、2日目は4会場に分かれて、環境・計画・構造・材料施工の分野ごとに活発な意見交換が行われた。いずれの会場も多くの参加者を集め、盛況のうちに無事終了することができた。

報告会に参加された方々をはじめ、準備運営に関わった関係者各位には深く感謝申し上げたい。

2024年度 第10回東北支部建築デザイン発表賞選考報告

選考委員長 櫻井 一弥

1. 応募講演
5講演

2. 選考経過
2-1 建築デザイン発表会
2024年6月22日（土） 11:00～11:55
於：アイーナいわて県民情報交流センター8階
803会議室（岩手県盛岡市盛岡駅西通一丁目7-1）

応募5講演のポスター掲示、ならびに発表が行われた。限られた発表時間の中でそれぞれのコンセプトが紹介されるとともに、活発な質疑回答が行われた。発表会は滞りなく進められた。時間厳守にご協力いただいた発表者各位、聴講者各位に感謝申し上げます。

2-2 選考委員会
2024年6月22日（土） 12:05～12:30
於：アイーナいわて県民情報交流センター7階 学習室3

発表全体を聴講した建築デザイン教育部会の部会員 3 名（下記参照）で、建築デザイン発表賞にふさわしい講演を選出することとした。

内規に従い、計 5 件の講演より 1 つの講演を選出することを確認し、部会員相互で協議した。様々なタイプのプロジェクトがある中で、どのように賞を選出するか、議論が難しかったが、最終的にはそれぞれのプロジェクトを多角的な視点から評価し、議論を通して決定することとした。

その際、内規に記載の通り、建築デザイン発表会を欠席する部会員には事前に講演梗概を開示し、賞にふさわしい候補を挙げてもらうこととしていた。欠席の部会員から E-01 を推薦したいとの意見が 1 件寄せられていたため、その点を考慮した上で、選考委員会に出席した部会員の協議で決定した。

結果、次節に示す講演に第 10 回建築デザイン発表賞を授与することとした。

選考委員長：櫻井 一弥

（建築デザイン教育部会長、東北学院大学）

選考委員：小地沢将之

（建築デザイン教育部会幹事、宮城大学）

馬渡 龍（八戸工業高等専門学校）

3. 選考結果

第 10 回日本建築学会東北支部建築デザイン発表賞 1 点 E-05 「地域資源を活かした復興計画に関する設計提案 -大槌町の湧水に着目して-

相澤 佑斗、友渕 貴之（敬称略）（宮城大学）

4. 講評

「地域資源を活かした復興計画に関する設計提案 -大槌町の湧水に着目して-

本講演は、岩手県大槌町に古くから見られる淡水の湧水を中心とした地区のマスタープランを設定し、それに合わせて湧水の魅力を活かした建築空間を提案したものである。対象地区では、昔から多くの箇所で湧水が自噴しており、共同の洗い場などの生活用水としてコミュニティの中心に位置していた。東日本大震災時には、地盤沈下の影響と考えられる自噴湧水の増加が見られ、被災者の生活を支えていたが、その後盛土によりその数が劇的に減少してしまったようである。本講演では、現存する湧水の箇所を丁寧にリサーチし、湧水の音が聞こえる範囲と高齢者の生活圏域などから地区内のゾーニングを設定している。建築物は、その湧水を活かすようにレベル差を設けた上で円形のモチーフを中心として設計され、図書館や飲食店、農作物加工場などが配置されたものである。

選考委員会では、最終的な建築物のデザインがやや過

剰なのではないか、といった意見が出されたが、自噴する湧水によって形成されてきた独自のコミュニティに着目した点や、緻密なリサーチとマスタープランの妥当性などが高く評価され、今回の賞に選出された。

2024 年度 日本建築学会東北支部総会報告

常議員 権代 由範

日時：2024 年 6 月 22 日（土） 15:35～16:15

場所：アイーナ・いわて県民情報交流センター 8F803 会議室

出席者：64 名

資料：

日本建築学会東北支部年報第 44 号

2024 年度日本建築学会東北支部総会式次第

資料 1-1 : 2023 年 3 月 31 日現在 貸借対照表

資料 1-2 : 2023 年度 正味財産増減計算書（予算との比較）

資料 1-3 : 2023 年度 正味財産増減計算書内訳表

資料 1-4 : 2023 年度 同上（事業毎の決算比較）

資料 2 : 2023 年度 会計監査報告書

資料 3-1 : 2024 年度 正味財産増減予算書

資料 3-2 : 2024 年度 正味財産増減予算書内訳表

資料 3-3 : 2024 年度 正味財産増減予算書（事業毎の予算
昨年度と比較）

市岡綾子前常議員による開会宣言の後、同常議員の司会により、以下の要領で総会が行われた。

1. 出席者数の確認

出席者 64 名の確認がされた。

2. 支部長挨拶

松本真一支部長による挨拶があり、支部総会開催にあたり、携わってくださった関係各位に感謝の意が述べられた。

3. 議事録署名員の選出

出席者の中から議事録署名員として、中村琢巳氏及び櫻井真人氏が選出された。なお、事業報告・決算報告は 5 月の本部通常総会での報告事項となっており、支部総会では報告のみとし議長は設けないこととした。

4. 議事

東北支部規程により、以下（1）（2）の事項について報告がされた。

（1）2023 年度事業及び会計に関する件

1）2023 年度事業報告

込山敦司常議員より、支部年報 25～26 ページの「2023 年度事業報告」に基づき、2023 年度事業内容が報告され

た。

2) 2023 年度収支決算

笹淵優樹常議員より、資料 1-1「貸借対照表」、資料 1-2「正味財産増減計算書（予算との比較）」、資料 1-3「正味財産増減計算書内訳表」、資料 1-4「正味財産増減計算書（事業毎の決算比較）」に基づき、2023 年度収支決算が報告された。

3) 会計監査結果

両支部監事より、資料 2「会計監査報告書」の通り、2023 年度の会計内容については疑義のない旨の会計監査結果が報告された旨を司会が代読した。

(2) 2024 年度事業及び会計に関する件

1) 2024 年度事業計画（案）

柴山明寛常議員より、支部年報 27～28 ページの「2024 年度事業計画（案）」に基づき、2024 年度事業計画案が説明された。

2) 2024 年度収支予算（案）

田中暁之常議員より、資料 3-1「正味財産増減予算書」、資料 3-2「正味財産増減予算書内訳表」、資料 3-3「正味財産増減予算書（事業毎の予算 昨年度と比較）」が説明された。

上記（1）（2）の報告内容について、特別な問題指摘などは無かった。

以上の議事終了の後、司会者により閉会が宣言され、2024 年度日本建築学会東北支部総会を終了した。

研究部会活動報告

(1) 建築史・意匠部会

部会長 大沼 正寛

建築史・意匠部会では昨年度、学術系のシンポジウム「素材をめぐる東北の建築史学—木と石を中心に—」を実施したことから、令和 6 年度は実践系のシンポジウム「建築遺産を守り育てる市民・技術者・研究者の共創—東北のヘリテージ・マネージャーの対話から—」を開催した。共催として東北 6 県（青森・岩手・秋田・宮城・山形・福島）の建築士会と日本建築家協会東北支部の計 7 団体、後援として日本建築士会連合会の参画を得たことは重要といえる。2024 年 12 月 7 日、仙台市戦災復興記念館 4 階研修室および Zoom オンラインを併用して行い、対面 47 名、オンライン 30 名、計 77 名の参加があった。題目のとおり、建築遺産の保存活用は、資金難、職人の激減、災害の頻発にくわえ、市民の認知・理解は必ずしも十分でない。人材減少などの課題を抱えながら未

発掘の多彩な文化遺産を秘める東北地方において、ヘリテージ・マネージャーらが県を越えた連携を図ろうとしている動きを契機として、建築遺産の保存活用に関心をよせる市民、技術者、研究者らが、立場を、エリアを超えて連携・協力の可能性を探ることを目的とした。主旨説明や進行は、当部会と共催団体の双方に関わっている高橋委員と筆者が務め、内容は 2 部構成とした。第 1 部では 7 団体から各地の取り組みや課題について共有いただき、伝建地区から単体文化財まで、実務者の視点から市民・行政との協働まで、多彩な視点が寄せられた。第 2 部では、当部会委員からコメントが寄せられ、会場参加者・オンライン参加者を交えたクロストークののち、永井康雄委員（山形大学）よりまとめの言葉があった。今後につながる重要な情報共有の場を創出することができたと考えている。なお、もう一つの重要な部会活動として、東北建築賞の顕彰事業に際して人選をすすめ推薦を行ったことがある。全般にわたり、関係各位のご協力に謝意を申し上げたい。

(2) 建築計画部会

部会長 坂口 大洋

日本建築学会東北支部建築計画部会のメンバーの年度内活動の一つとして、2022 年 3 月 16 日に発生した福島沖を震源とする地震に対する被害調査を、昨年度末に行い本年度に入りの課題整理を施工部会とともに行いました。

また、建築学会のウイズ／アフターコロナに適応する建築・都市に関する特別調査委員会（主査大月敏雄先生（東京大学））における関連調査として、宮城県を中心とした文化施設における施設利用における感染対策の状況、及びコロナ禍における施設利用状況の推移などの調査を行った。様々な課題が散見されたが、特に動線計画におけるゾーニングの重要性や地域の市民活動団体の活動量の低下などが再認識された。

(3) 地方計画部会

部会長 小地沢 将之

地方計画部会は、引き続き「小地域のエリアマネジメント」をテーマに、教育研究や実務のさまざまなフィールドで活躍する部会員の関心領域の擦り合わせを行った。

昨年 7 月 25 日には山形県を中心に、大規模な豪雨災害が発生した。庄内地方で供給されるすべての仮設住宅が賃貸型（いわゆる「みなし仮設」）となることが早々に決まったことから、みなし仮設の入居者向けの居場所づくりや支援拠点の形成に向けた取組みである「しょうない復興ステーション」が酒田駅前交流拠点施設「ミライニ」

内に立ち上がり、このうち支援者向けの研修会を地方計画部会の主催により開催することとした。

「庄内地方の Build Back Better を考える」(10月2日開催)では、酒田大火をはじめとする過去の災害の知見の生かし方について紹介した。「仮住まいの期間における支援を考える」(11月8日開催)では、仮設住宅団地の有無による支援の違いについて紹介した。「孤独・孤立を防止する」(12月13日開催)では、立岡学氏(一般社団法人パーソナルサポートセンター業務執行常務理事)と江崎太郎氏(特定非営利活動法人 YNF 代表理事)をオンラインでお招きし、災害ケースマネジメントの重要性について紹介していただいた。

研修会にご登壇いただいた両氏は、昨年1月1日に発生した能登半島地震においても、被災者支援に尽力されている。本年3月に珠洲市において江崎氏にあらためてヒアリングを行ったが、被災者は防災集団移転促進事業だけではなく、自力再建のノウハウを欲しているとのことだった。エリアマネジメントの観点でも、管理しやすい様なまちづくりに収束させるのではなく、多様なニーズに対応した支援が必要であるといえよう。

(4) 構造部会

部会長 前田 匡樹

2024年度は、温室効果ガス削減に貢献する木質材料の建築構造への適用に関係する、以下の公開セミナー、講演会を会員に広く公開し、情報交換や研鑽の機会とした。

2024年11月17日に、東北大学知の館にて、公開セミナー『Urban Transition with Wood for Enhanced Resilience of Cities and Forests』(主催:東北大学知のフォーラム)が開催された。銘建工業(株)社長・中島浩一郎氏、スウェーデン・White arkitekter 建築士・Robert Schmitz 氏、オーストラリア・Forest&Wood Products Australia チーフエンジニア・Kevin Peachey 氏から、木とともにある社会の変革がもたらすレジリエントな未来都市と森林を目指した様々な木造建築や技術開発・普及に関する各国の取り組みが紹介された。

2025年1月7日に、東北大学工学部において、(株)三菱地所設計 R&D 推進部 木質建築ラボ チーフエンジニア・海老澤渉氏を講師としてお招きして、講演会『構造デザインが切り拓くこれからの木質建築の可能性と未来』を開催した。海老澤氏の三菱地所設計での構造デザイン作品や三菱地所での木造木質化取組、新木材事業会社 MEC Industry の創設・CLT 等の木材利用普及への取組など、幅広い活動について紹介された。



(5) 環境工学部会

部会長 許 雷

環境工学部会は、「東北地方の建築・都市の統合的な環境負荷削減のあり方に関する研究」をテーマに、継続的に活動を展開している。2024年度では、部会員の研究紹介をはじめ、各部会員が所属する企業での BIM 活動の実例を共有するとともに、「建築設備設計における BIM 技術の応用」に関する講演会兼勉強会を開催した。

7月の部会では、東北工業大学鍵屋浩司委員より、「風の道」の研究をはじめ、木造3階建て学校の火災、介護ロボットなど最先端の研究内容が紹介された。10月では、東北電力株式会社古林和則委員などが登壇し、ワークプレイスの提案や発電所の3次元もデジタル化といった

BIM の実践事例を紹介した。同時に、部会幹事の石洋之委員からは、駅舎の温熱環境や冷房牛舎の温熱環境調査、価値観に基づく景観評価など、幅広い研究事例が報告された。また、2025 年 1 月には、谷内秀敬氏（新菱冷熱工業株式会社 BIM 推進室長・buildingSMART Japan 環境設備小委員会委員長）と田中謙太郎氏（株式会社 CYPE エンジニアリングマネージャー・日本担当）を招き、公開講演を開催した。本講演では、設備エンジニアが果たす BIM DX（デジタルトランスフォーメーション）の役割や、BIM による新たな設計ワークフローについて、講師陣の豊富な経験と具体的な事例を交えながら、BIM 技術の最新動向に関する貴重な知見が提供された。

次年度は、部会の体制をより一層強化し、部会員の研究事例や相互連携を促進だけでなく、外部への積極的な情報発信なども計画している。これにより、環境工学分野における BIM のさらなる発展と普及を図り、持続可能な建築・都市づくりへの貢献を目指している。

(6) 材料部会・施工部会

材料部会部会長 石山 智
施工部会部会長 西脇 智哉

これまで本会東北支部では、大学教員等が主体の「材料部会」と建設会社等が主体の「施工部会」が独立して活動してきた。しかし、本部が「材料施工本委員会」体制であること、また東北支部でも材料・施工両分野の密接な連携実績があることを踏まえ、2025 年度から両部会を統合し「材料施工部会」として一体的に活動することを決定した。これにより、材料と施工の両面から建築技術発展に寄与する、より効果的な議論と実践の場を目指す。

2024 年度は、いずれも施工部会・材料部会が共催で現場見学会や技術課題に関する議論を行った。第 1 回（5 月 22 日）では、宮城県富谷市の鹿島建設による物流施設新築工事現場を見学し、最新施工技術を学んだ。第 2 回（7 月 25 日）はオンラインで「建設業 2024 年問題」への対応策や生産性向上事例について意見交換を実施した。第 3 回（10 月 3 日）は、宮城県黒川郡大和町の大成建設による工場新築工事現場を見学し、品質管理や施工技術について現場担当者から説明を受けた。第 4 回（11 月 18 日）では 2025 年度からの両部会の統合に向けた最終協議をオンラインで行い、新体制下での運営方針を確認した。第 5 回（2025 年 2 月 17 日）は対面形式で開催し、仙台高専・日本大学の学生が研究事例を紹介した。以上 5 回の部会を開催し、東北地区における産学の取り組み状況を共有することで、今後の連携強化を図る機会となった。

2025 年度からは新たな「材料施工部会」体制のもと、より充実した議論と活動を展開していきたい。

(7) 建築デザイン教育部会

部会長 櫻井 一弥

2024 年度は、久々の「みちのくの風」現地開催となり、それに合わせて「第 10 回建築デザイン発表会」も盛岡での対面開催となった。応募 5 講演について、スライドを用いた発表が行われた。また、もう一つの大きな事業として、2014 年度より JIA（日本建築家協会）東北支部との共催で実施している「建築学生テクニカルセミナー 2024」を対面方式で開催し、実りある成果が得られた。

第 10 回建築デザイン発表会は、2024 年 6 月 22 日（土）11:00～11:55 に行われた。限られた発表時間の中でそれぞれのコンセプトが紹介されるとともに、活発な質疑回答が行われ、発表会は滞りなく進められた。その後、建築デザイン発表賞選考委員会を開催し、1 題を第 10 回日本建築学会東北支部建築デザイン発表賞として選出した。賞の選考過程に関する詳細並びに講評については「2024 年度 第 10 回日本建築学会東北支部建築デザイン発表賞 選考報告」を参照されたい。

建築学生テクニカルセミナー 2024 は、2024 年 11 月 9 日（土）10:00～12:00 に、せんだいメディアテーク 1 階オープンスクエアにて対面形式で行われ、学生約 50 名、建築関係者約 30 名の計約 80 名が参加した。

上記 2 つの大きな事業に加えて、第 28 回 JIA 東北建築学生賞に対する本部会からの審査員派遣を行った。実施日時は 2023 年 10 月 4 日（金）12:30～18:00、実施場所はせんだいメディアテーク 1 階オープンスクエアで、対面形式での開催であった。

2025 年度は、今年度と同様、建築デザイン発表会の開催と建築学生テクニカルセミナーの開催等を大きな柱として事業を進めていく予定である。

(8) 災害調査連絡会

委員長 佐藤 健

災害調査連絡会では、地震などの自然災害が発生した際に、迅速な被害調査、及び、復興支援活動を実施するための組織と連絡体制の整備に継続して取り組んでいる。委員長（佐藤健）のもと、東北支部内の研究部会の各部会長及び部会推薦委員からなる連絡・調整幹事会を設置し、本部災害委員会・東北支部代表委員（日本大学・日比野 巧専任講師）と連携しながら、災害発生時の情報発信と共有、被害調査の調整などを行っている。

2024 年度は、東北地方において大きな地震災害は発生しなかった一方で、2024（令和 7）年 2 月 26 日に発生した大船渡市の林野火災（赤崎町 合足地内発生）では、3 月 9 日の 17:00 に鎮王宣言がなされたものの、死者 1 名、

物的被害として建物210棟、約2,900haが焼失するなど、甚大な災害となった。

2024年1月1日に発生した「令和6年能登半島地震(最大震度7、M7.6)」については、科研費突発災害調査研究「2023年5月5日の地震を含む能登半島北東部陸海域で継続する地震と災害の総合調査」と連携、情報共有等を行った。

(9) 津波に強い建築を活用した津波減災研究委員会

委員長 田中 礼治
副委員長 船木 尚己

本委員会は、大規模地震に伴う津波による人的被害の軽減を目的として、従来の水平避難に加え、建物を活用した垂直避難の可能性を検討するために設立された。本年度は、以下のとおり2回のシンポジウムを開催し、さまざまな立場の専門家および実務者による取り組みの報告を受けるとともに、参加された市民の皆様からのご意見を伺いながら、津波避難のあり方について共に考える貴重な機会を設けた。次年度は、部会体制のさらなる強化を図るとともに、部会員による研究事例の共有に努める。また、昨年度に引き続き、外部への積極的な情報発信を行う。特に、地域の実情に即した避難計画の策定支援や、住民参加型の避難訓練の実施方法の検討、さらに教育・啓発活動を通じて、垂直避難に対する理解と関心の向上を目指す。あわせて、行政機関や民間企業との連携を一層強化し、より実効性のある避難体制の構築に向けた具体的な提案を行っていくこととする。

(1) 第2回シンポジウム「津波に強い建築を活用した津波減災を考える」

開催日時：2024年9月7日(土) 10:00~11:30

会場：せんだいメディアテーク 7階 スタジオシアター

参加者：34名

プログラム構成：

・齋藤 徳美氏(岩手大学 名誉教授)

テーマ：「津波の避難方法を考える ～久慈市『消防士は避難目標時点へ』、啓発と先導を～」

・井上 剛氏(旧山元町立中浜小学校 元校長)

テーマ：「学校建築と津波避難を考える ～震災を乗り越えて～避難を決断すること」

(2) 第3回シンポジウム「津波に強い建築を活用した津波減災を考える」

開催日時：2025年3月15日(土) 13:00~16:00

会場：東北工業大学 八木山キャンパス 1号館 122教室

参加者：約50名

プログラム構成：

I. 基調講演「津波の避難方法を考える」

・齋藤 徳美氏(岩手大学 名誉教授)

テーマ：「津波の避難方法を考える～日本海溝北部の巨大

地震に向けて、山積する課題」

・今村 文彦氏(東北大学 災害科学国際研究所 教授)

テーマ：「津波の『避難』方法を考える」

II. 学校建築と津波避難を考える

・井上 剛氏(旧山元町立中浜小学校 元校長)

テーマ：「震災を乗り越えて～避難を決断すること」

・田中 礼治氏(東北工業大学 名誉教授)

テーマ：「学校建築について」

・小関 勝男氏(小関構造設計室)

テーマ：「あの日、長い日」

・鈴木 清氏(建築防災マネージメント支援機構 代表理事)

テーマ：「津波から命を救った建物」

III. パネルディスカッション「津波の避難方法を参加者全員で考える」

・モデレーター：田中 礼治氏(東北工業大学 名誉教授)

・総合司会：船木 尚己氏(東北工業大学 教授)

支所だより

青森支所

青森支所長 川島 芳正

青森支所の今回の全員協議会の基調講演は、八戸工業大学の野口巧巳先生の「コンクリートの耐凍害性ポテンシャル 変化とその予測・地域評価」という題目の講演でした。

テーマが、専門的なため一般の人達には声かけをせずに学会会員のみの周知でのかいさいとなりました。

野口先生が博士課程の頃から研究し続けて、現在八戸工業大学に就任されても研究を続けているコンクリートの耐凍害性のお話を、学生時代から遡ってお話しされたのは、研究の継続という意味でも非常に感銘を受けました。

この耐凍害性ポテンシャルの試験は、実際にコンクリートを作製して凍結と融解を繰り返すことで耐久性を評価するもので、試験結果を得るまで3ヶ月ほどかかってしまい、同じ条件で試験を行っても、天然材料である砂や砂利の性質が時期によって変わるため、全く同じ条件を再現することは難しいという課題があるとのことで非常に難しいことにチャレンジされていることがわかりました。さらに、一度に試験できるコンクリートの数にも限りがあり、効率的な研究が求められているとのことでした。そのため、野口先生は、AI ツール「MatrixFlow」を導入し、試験結果の予測に活用しているとのことで、若い野口先生だからこの発想で研究の効率化をはかっているのだと感銘を受けました。

建築の話だけでなく AI の離しも聞けて非常に為になった講習会でした。



秋田支所

秋田支所長 松本 真一

例年通り、「秋田県工業系高校生徒による建築設計作品コンクール」の主催が活動の中心でした。11件の応募作品は、相変わらず、教員からの指導・助言に基づく学習の跡やグループでの議論・協働の跡が認められ、若者らしい「伸びしろ」のある頼もしいものばかりでした。特に今年は、地域の学校の統廃合という身近で深刻な建築的課題に取り組んだ多数の作品が目を引きました。最優秀作品賞に選出された秋田県立由利工業高等学校生徒2名による「もしも私たちの学校が廃校になったら…!?～廃校が紡ぐ、新しい可能性～」は、観光スポットや図書館などの複合施設へのコンヴァージョンを提案したもので、若い感性の光る充実した内容のものでした。

コンクールの表彰式と講評会は令和7年2月8日に実施しました(写真)。後援頂いた建設業関連8団体の役員の皆様、裏方をお願いした秋田市の建築行政関係職員の皆様に、紙面を借りて御礼を申し上げます。

また、新たな取り組みとして、小規模で試行的ながら秋田文化創造館(秋田市)屋外スペースにおいて「親と子の都市と建築講座」を支所行事として実施できた点が特筆できます。今回の企画は、伝統の「茅葺き」の体験学習で、9名の児童の参加がありました。来年度以降も、様々な企画を練り、行事の定着を図りたいと考えています。



岩手支所

岩手支所長 刈谷 洋祐

2024年6月22日及び23日に「みちのくの風2024」が、盛岡市のアイーナを会場に開催されました。東北支部常議員をはじめ、事務局ほかの皆様のご協力により開催され、多くのご参加をいただき盛会裏に終了しましたことに改めて感謝申し上げます。

5年ぶりに対面での開催となった「みちのくの風」でしたが、特に支部研究報告会では、会場によっては椅子が足りなくなるほどの盛況ぶりで、地方での貴重な建築の学びの場であると改めて認識いたしました。

また、11月30日には、岩手支所で例年後援している「盛岡市都市景観シンポジウム」において盛岡市都市景観賞の表彰式が行われ、歩いて楽しむまちづくりの中心的存在として期待される「monaka(もなか)」など、周辺景観に調和した美しいまち並みを育む、魅力ある建築2件が受賞しました。



monaka(もなか) ※盛岡市ホームページより

表彰式に続き行われた、盛岡市在住の漫画家田中美奈子氏の基調講演や「作品に込めた盛岡の景観」というテーマでのパネルディスカッションでは、パネリストたちの、「景観とは特別なものではなく、日常の延長にある」という思いと同時に、皆さんの「もりおか愛」を強く感じました。

山形支所

山形支所長 相羽 康郎

山形支所が他の建築団体に呼びかけて 2018 年に始まった 4 学協ワークショップの中心課題が旧師範学校木造講堂の保全であった。2023 年 2 月遊学館(県立図書館)に一般市民 60 余名を集めたシンポ・ワークショップ(WS)後相談を受けて、より広範な旧山形師範学校講堂保存活用実行委員会(委員長:結城章夫元山大学長)が立ち上がった。本年度は 9 月 14 日(土)実行委員会主催の WS 研修会に共催し、5 グループのコーディネーターを受け持って、とりまとめ・発表などを分担した。遊学館に約 60 名の参加があった。

ワークショップでは、立ち入り禁止状況の講堂と L 字に隣接する教育資料館(国指定文化財)両者が面する中庭広場に関し、3 段階に応じて活用の協議をした。

① 講堂使用禁止段階(中庭広場、門衛所の利用)

中庭での行事(卒業式、写真撮影、若い人の集まるイベント、青空授業など)、SNS による情報発信

② 講堂が使える段階

外に漏れる木造のほどよい音環境を大事にした音楽の場として普段は練習ハレの定期演奏会、スポーツに利用、若い人の WS 空間、まち歩きの起終点、カフェ

③ まち歩きにつなぐ段階

三島通り(つきあたりが教育資料館)に人が来ないのはまだ歴史文化ゾーンとして定着していないので三島通りに物語づくりが必要、入りにくい雰囲気なので通り沿いの文化施設と連携したイベントや隣接する 3 つの高校との連携活動

最後に、つなぐ歴史文化、大学生の参加、行政人の熱意、講堂の意義を広く周知等の発言があった。



写真提供: 山形新聞社

福島支所

福島支所長 星 剛

2024 年度は、『「親と子の建築講座」～やさしい建築 折り紙建築ワークショップ～』の開催や『建築士事務所キャンペーン』の共催、『第 17 回福島県建築系高校卒業設計優秀作品表彰』への協賛を中心に活動しました。

「親と子の建築講座」は、7 月 20 日に福島市の福島県教育会館で開催し、5 組 10 名の親子に参加いただきました。折り紙建築の製作を通じて建築のデザイン等を楽しく学び、身近に感じてもらうことで、建築へ興味を持ってもらうことを目的に、県内に実在する建築物をモデルとした折り紙建築を数種類用意しました。参加者は非常に繊細な作業に悪戦苦闘しながらも完成させた折り紙建築をお互いに評価し合うなど、建築デザインに親しみながら触れることができました。

「建築士事務所キャンペーン」は、2 月 8 日に福島市で開催し、建築設計関係者や学生など約 130 人に参加いただきました。「あるものをいかし、ないものをつくる」と題し、建築家・東京藝術大学美術学部建築科教授のヨコミゾマコト氏より「今までにないものを作っていかなければならず、そこに職能がある」との考えのもと、建築設計の向き合い方について講演いただきました。

「第 17 回福島県建築系高校卒業設計優秀作品表彰式」では、県内の建築系学科を有する高校 4 校の 12 人を表彰し、高校生活で培った技術や創造性を讃えました。3 月 17、18 日に福島市で開催された優秀作品展では、生徒の様々な工夫やアイディアに溢れるすばらしい作品が並び、多くの方が見学しました。

当支所といたしましては、建築に携わる将来の担い手を確保・育成するため、建築の魅力を広く情報発信するなど、引き続き、地域の教育機関や関係団体と連携・協働しながら、地域に根ざした支所活動を更に充実させ、福島の復興・創生に貢献していきたいと考えております。

支部役員会から

常議員 柴山 明寛

支部役員会は、支部長と 14 名の常議員で構成される。常議員は、会務を処理するため、支部役員会において会務を審議し、議決するものと定められており、東北支部全体の運営を担っている。支部役員会は、年 2 回以上支部長が招集することとされてい

るが、基本的には隔月程度の頻度で開催されている。

本年度は、支部役員会が4月、5月、7月、10月、11月、2月、3月と開催され、粛々と会務の処理を行うことができた。支部役員会の開催に際しては、対面とZoomを上手に利用し、出席者の増加に効果を上げている。

毎年恒例の行事である、支部総会と支部研究報告会を核とした「みちのくの風」であるが、5年ぶりに対面で開催し、研究報告集第87号（構造系冊子・計画系冊子）とCD-ROMを発刊した。特別企画として、竹内 徹先生（日本建築学会会長・東京工業大学教授）に災害後も住み続けられるまちづくり美しくタフな建築・まちづくりを目指してーとして記念講演会を賜った。また、コロナ前までは5月の支部総会で開催していた司法支援建築会議東北支部講演会もみちのくの風にて開催した。吉野司法支援建築会議委員長から、司法支援建築会議の発足から現在に至るまでの経緯、ならびに最高裁判所建築訴訟委員会の活動と最近の話題等が紹介された。東北建築賞表彰式については作品賞部門と業績賞部門の表彰式をみちのくの風で開催し、いずれの行事も盛会に終了した。

5年ぶりの対面でのみちのくの風ということもあり、懇親会には会長をはじめ東北建築賞受賞者や支部発表者など多数出席され、賑わいのある懇親会であった。

東北建築作品発表会は、アフターコロナであるが、東北に建設された建物を全国の皆様に知っていただくことを目的にオンラインで開催した。

その他、9月には支部長・総務企画担当常議員も出席して支所長会議を実施し、みちのくの風、日本建築学会文化賞の推薦、次年度からの支所交付金の取り扱いについて報告・審議と意見交換を行った。2024年度の支部役員会で取り上げられた主な議事を以下に示す。

■4月支部役員会（2024年4月30日開催）

[報告事項]理事会報告、会計報告、決算報告、代議員・支部推薦理事候補者・常議員選挙結果報告・役割分担、支部研・デザイン発表会論文募集の報告、岩手支所と福島支所規約改正、賞杯の試作品納品、事務局職員の基本給昇給率、支部年報編集報告[審議事項]みちのくの風2024岩手進捗、新常議員の役割分担、2024年度支部長代行と学術推進委員、2024年度災害委員会支部企画、第45回東北建築賞募集要項、東北建築賞作品賞選考方法内規、支部のWebページSSL化、2024年度建築文化事業、その他

■5月支部役員会（2024年5月27日開催）

[新旧役員の引継ぎ]年間行事予定と会議形式、オンラインストレージの使用方法、[報告事項]会計報告、みちのくの風2024岩手業務確認、東北建築賞の改正点、建築文化週間事業報告、[審議事項]

支部長代行者、みちのくの風の次会場、賞杯、後援依頼、その他

■7月支部役員会（2024年7月31日開催）

[報告事項]理事会報告、会計報告、支部総会報告、みちのくの風2024岩手開催報告、第10回建築デザイン発表賞選考報告、作品選集2025選考進捗報告、本会設計競技支部審査報告、後援依頼承諾、災害委員会支部企画申請と採択報告、[審議事項]みちのくの風2025宮城の体制について、次年度からの支部研梗概集（冊子とCD-ROM）についての検討、本会文化賞推薦依頼、本会教育賞推薦依頼、本会大賞推薦依頼、援依頼他

■9月支部役員会（2024年9月30日開催）

[報告事項]理事会報告、会計報告、作品選集2025報告、第26期代議員および支部役員選挙、東北建築作品発表会開催報告、本会教育賞（教育業績）推薦報告、旧仁鮎小学校校舎・体育館の学術調査に関する要望書提出報告[審議事項]みちのくの風2025宮城、選挙管理委員会の設置、2025年度設計競技支部審査員（常議員枠）、支部研究報告会の梗概について、支部規程の改正について、その他

■11月支部役員会（2024年11月25日開催）

[報告事項]理事会報告、会計報告、代議員・常議員候補者届出報告、次期設計競技全国審査員・支部審査員選出報告、作品選集2065支部選考部会委員報告、第34回東北建築作品発表会報告、[審議事項]みちのくの風2025宮城、2025年度支部予算案、次年度からの支部研梗概集、支部研究報告集会論文募集スケジュール・募集要項、建築デザイン発表会募集要項、支部年報発刊計画、支部研究補助費申請、全国大学高専卒業設計展示会会場確認、後援依頼、津波に強い建築を活用した津波減災研究委員会からの設定期間変更（常設化）の依頼、材料部会と施工部会の合併についての依頼、その他

■2月支部役員会（2025年2月19日開催）

[報告事項]理事会報告、会計報告、支部研究補助費申請報告、秋田支所からの賞状贈呈依頼承認報告、2025年度全国・大学高専卒業設計展示会の日程報告、支部年報45号原稿執筆依頼、第45回東北建築賞作品賞選考報告、第45回東北建築賞業績賞選考報告、第45回東北建築賞研究奨励賞選考報告、[審議事項]2025年度親と子の建築講座と建築文化事業、男女共同参画事業、後援依頼、その他

■3月支部役員会（2025年3月28日開催）

[報告事項]理事会支部長会議報告、会計報告、支部研・デザイン発表会論文提出報告、2024年度支部研究補助費活動報告、代議員の開票結果報告、支部年報編集進捗[審議事項]みちのくの風2025宮城、後援依頼、その他

2025 年度 支部役員名簿

東北支部常議員の構成と役割分担

役 割	2024 年度 (2024 年6 月～2025 年6 月)	2025 年度 (2025 年6 月～2027 年6 月)
支部長	松本 真一 (秋田県立大)	松本 真一 (秋田県立大)
総務企画	柴山 明寛 (東北大) 中村 琢巳 (東北工大) 権代 由範 (仙台高専) 櫻井 真人 (秋田県立大) 堀川 真之 (日大)	櫻井 真人 (秋田県立大) 堀川 真之 (日大) 野村 俊一 (東北大) 鍵屋 浩司 (東北工大) 宗政 由桐 (山形大)
社会文化	後藤 伴延 (東北大) 福士 譲 (フクシアンドフクシ アーキテクト) 錦織 真也 (東北工大)	後藤 伴延 (東北大) 福士 譲 (フクシアンドフクシ アーキテクト) 錦織 真也 (東北工大)
学術教育	齋藤 俊克 (日大) 山本 和恵 (東北文化学園大)	山本 和恵 (東北文化学園大) 吉野 裕貴 (仙台高専)
会計会員	田中 暁之 (JR 東日本) 笹渕 優樹 (仙台市)	五上 光紀 (JR 東日本) 志賀 俊輔 (仙台市)
図書情報	栗原 広佑 (東北工大) 野口 巧巳 (八戸工大)	宮城 聡 (日大)

研究部会長

研究部会	部 会 長
構造部会	五十子幸樹 (東北大学教授)
材料施工部会	西脇 智哉 (東北大学准教授)
建築計画部会	坂口 大洋 (仙台高等専門学校教授)
地方計画部会	小地沢将之 (宮城大学教授)
建築史・意匠部会	黒坂 貴裕 (八戸工業大学教授)
環境工学部会	許 雷 (東北工業大学教授)
建築デザイン教育部会	櫻井 一弥 (東北学院大学教授)
災害調査連絡会	佐藤 健 (東北大学教授)
津波に強い建築を活用した津波減災研究委員会	田中 礼治 (東北工業大学名誉教授)

東北支部会員数 (2025 年 3 月 1 日現在)

名誉会員	3 名
終身会員	75 名
正会員 (個人)	1,073 名
正会員 (法人)	33 法人
準会員	34 名
賛助会員	6 法人

支部監事

2025 年 6 月～2027 年 5 月

笹渕 優樹 (仙台市)
権代 由範 (仙台高専)

東北支部選出代議員

任 期	代 議 員
2024 年 3 月 21 日 ～選任の 2 年後 に実施される代 議員選挙終了の ときまで	小林 光 (東北大学教授) 堀 則男 (東北工業大学教授)
2025 年 3 月 21 日 ～選任の 2 年後 に実施される代 議員選挙終了の ときまで	窪田 亜矢 (東北大学教授) 板垣 直行 (秋田県立大学教授)

支所長

支 所	支 所 長
青森支所	川島 芳正 (川島隆太郎建築事務所代表取締役)
秋田支所	長谷川兼一 (秋田県立大学建築環境システム学科教授)
岩手支所	刈谷 洋祐 (岩手県県土整備部建築住宅課総括課長)
山形支所	佐藤 慎也 (山形大学工学部建築・デザイン学科教授)
福島支所	村上 金彦 (福島県土木部建築住宅課長)

一般社団法人 日本建築学会東北支部		自 2024 年 4 月 1 日
2024 年度事業報告		至 2025 年 3 月 31 日

〈事務の部〉

総 会	1. 2023 年度事業報告・決算報告・会計監査報告 2. 2024 年度事業計画・予算案	2024 年 6 月 22 日 アイーナ・いわて県民情報交流センター
諸 会 合	総会 (1)、支部役員会 (7)、支所長会議 (1)、東北建築賞作品賞選考委員会 (3)、東北建築賞業績賞選考委員会 (2)、東北建築賞研究奨励賞選考委員会 (1)、設計競技支部審査会 (1)、選挙管理委員会 (1)、作品選集支部選考部会 (2)、司法支援建築会議東北支部運営委員会 (3) その他部会など開催	() は回数
代議員半数改選	(留任) 小野田泰明、長谷川兼一 (新任) 小林 光、堀 則男	2023 年 3 月 21 日～選任の 2 年後に実施される代議員選挙終了のときまで 2024 年 3 月 21 日～選任の 2 年後に実施される代議員選挙終了のときまで
支部長改選	(退任) 速水清孝 (新任) 松本真一	2022 年 6 月～2024 年 5 月 2024 年 6 月～2026 年 5 月
常議員半数改選	(退任) 安部信行、市岡綾子、大野 晋、込山敦司、安田直民、八十川淳 (留任) 栗原広佑、権代由範、齋藤俊克、笹渕優樹、柴山明寛、田中暁之、中村琢巳 (留任) 後藤伴延、櫻井真人、錦織真也、野口巧巳、福士 謙、堀川真之、山本和恵	2022 年 6 月～2024 年 5 月 2023 年 6 月～2025 年 5 月 2024 年 6 月～2026 年 5 月
支部監事	(留任) 鈴木博之、佃 悠	2023 年 6 月～2025 年 5 月

〈支部事業〉

研究委員会	〔部会名〕 〔部会長〕 〔研究テーマ〕 構 造 : 前田匡樹 耐震補強技術における新しい試みに関する研究調査 材 料 : 石山 智 サステナビリティ確保に向けた建築材料からの取り組み 建築計画 : 坂口大洋 縮退社会における建築計画の課題抽出と実践化 地方計画 : 小地沢将之 小地域のエリアマネジメント 建築史・意匠 : 大沼正寛 歴史的建築及び資料の保存・活用に関する研究 環境工学 : 許 雷 東北地方の建築・都市の統合的な環境負荷削減のあり方に関する研究 施 工 : 西脇智哉 建築施工における技術継承と新たな展開 建築デザイン教育 : 櫻井一弥 東北地方の建築デザイン教育の質的向上に関する研究 災害調査連絡会 : 佐藤 健 東北地域における地震及び各種災害が発生した際の調査、広報に関わる連絡や調整および関連事業の企画立案と支援 津波に強い建築を活用した津波減災研究委員会 (期限付) : 田中礼治	
本部・支部研究助成金による研究	研究題目: 自然災害からの復興における「みやぎボイス」の活用に関する実践的研究 研究部会: 建築デザイン教育部会 (研究代表者 櫻井一弥)	2024 年 4 月～2025 年 3 月
支部研究報告会	2024 年度第 87 回東北支部研究報告会 研究報告集第 87 号計画系・構造系刊行 発表題目 79 題	2024 年 6 月 22 日・23 日 アイーナ・いわて県民情報交流センター
建築デザイン発表会	2024 年度第 10 回東北支部建築デザイン発表会 発表題目 5 題	2024 年 6 月 22 日 アイーナ・いわて県民情報交流センター
支部主催 支部共催 イベント	1. 支部主催 1) 建築教育文化事業 建築文化週間事業 第 45 回「東北建築賞」募集 2) 第 34 回「東北建築作品発表会」の開催 3) 第 45 回「東北建築賞」の選考 4) みちのくの風 2024 岩手 ・第 87 回支部研究報告会 ・第 10 回建築デザイン発表会	2024 年 10 月 5 日 オンライン (Zoom) 2024 年 10 月～2025 年 1 月 2024 年 6 月 22 日・23 日 アイーナ・いわて県民情報交流センター

	・会長記念講演会 テーマ：災害後も住み続けられるまちづくり ー美しくタフな建築・まちづくりを目指してー 講演者：竹内 徹（日本建築学会会長・東京工業大学教授） ・第4回司法支援建築会議東北支部講演会 テーマ：最高裁判所建築訴訟委員会の活動について 講演者：吉野 博（東北大学名誉教授／司法支援建築会議委員長ならびに東北支部運営委員長） ・2024 年度日本建築学会東北支部通常総会ならびに功労者表彰式・終身会員紹介・設計競技支部入選者紹介 ・第44回東北建築賞表彰式ならびに受賞記念講演会 ・第10回建築デザイン発表賞表彰式 ・懇親会 2. 支部共催 親と子の都市と建築講座 1) 福島会場 テーマ：～やさしい建築 折り紙建築ワークショップ～ 2) 岩手会場 テーマ：“組手什（くでじゅう）”で小さな家具づくり 3) 秋田会場 テーマ：茅葺小屋をつくろう！ 4) 仙台会場 テーマ：“組手什（くでじゅう）”で小さな家具づくりと椅子の組み立て体験	2024 年 7 月 20 日 福島県教育会館 2024 年 11 月 2 日 岩手県立大学 2024 年 11 月 4 日 秋田市文化創造館 2025 年 1 月 25 日 宮城教育大学
研究部会主催	1. シンポジウム 2. その他、部会ごとに講習会・研究会・見学会などを適宜開催	
表 彰	1. 支部功労会員表彰 法人賛助会員 8 社、個人会員 5 名 2. 設計競技支部入選者の紹介 3 名 3. 終身正会員の紹介 4 名 4. 第 10 回建築デザイン発表賞 1 名 5. 第 45 回東北建築賞表彰式 作品賞部門 作品賞 4 作品、特別賞 1 作品 業績賞部門 2 作品	2024 年 6 月 22 日 アイーナ・いわて県民情報交流センター
支 所 活 動	青森支所 ・全員協議会 ・基礎講演会「コンクリートの耐震性ポテンシャル 変化とその予測・地域性評価」 秋田支所 ・親の子の都市と建築講座「茅葺小屋をつくろう！」 ・第 53 回秋田県工業系高校生による建築設計作品コンクール 岩手支所 ・第 47 回盛岡市都市景観シンポジウム後援など 山形支所 ・旧山形師範学校 講堂活用ワークショップ 福島支所 ・親と子の都市と建築講座「親子で学ぼう～やさしい建築 折り紙建築ワークショップ～ ・支所後援事業など	2024 年 6 月 24 日 2024 年 6 月 24 日 2024 年 11 月 4 日 2025 年 2 月 8 日（表章式） 2024 年 11 月 30 日 2024 年 9 月 14 日 2024 年 7 月 20 日
刊 行 活 動	支部年報第 44 号発刊 東北支部研究報告集第 87 号計画系・構造系ならびに第 10 回建築デザイン発表会梗概集（CD-ROM）発刊 東北建築作品集第 34 号発行	2024 年 5 月 30 日 2024 年 6 月 22 日 2024 年 10 月 5 日

〈支部共通事業〉

講 習 会	2024 年度日本建築学会支部共通事業 鉄筋コンクリート構造計算規準改定講習会	2024 年 12 月 25 日 ハーネル仙台
-------	--	----------------------------

展 示 会	・全国大学・高専卒業設計展示会巡回展示会 山形市、郡山市、八戸市、仙台市、由利本荘市	2024 年 6 月～11 月
審 査 会	・2024 年度支部共通 日本建築学会設計競技 テーマ：「 commons の再構築—建築、ランドスケープはもたらす自己変容」 ・日本建築学会「作品選集 2025」東北支部選考部会	2024 年 7 月 8 日 オンライン (Zoom) 2024 年 6 月～8 月 オンライン (Zoom)

一般社団法人 日本建築学会東北支部	自 2025 年 4 月 1 日 2025 年度事業計画 (案) 至 2026 年 3 月 31 日
-------------------	--

〈事務の部〉

総 会	1. 2024 年度事業報告・決算報告・会計監査報告 2. 2025 年度事業計画・予算案	2025 年 6 月 21 日 東北学院大学五橋キャンパス
諸 会 合	総会 (1)、支部役員会 (7)、支所長会議 (1)、東北建築賞作品賞選考委員会 (3)、東北建築賞業績賞選考委員会 (1)、東北建築賞研究奨励賞選考委員会 (1)、設計競技支部審査会 (1)、選挙管理委員会 (1)、作品選集支部選考部会 (2)、研究部会連絡会 (1) 司法支援建築会議東北支部運営委員会 (3)、男女共同参画事業 (1)	() は回数
代議員半数改選	(留任) 小林 光、堀 則男 (新任) 窪田亜矢、板垣直行	2024 年 3 月 21 日～選任の 2 年後に実施される代議員選挙終了のときまで 2025 年 3 月 21 日～選任の 2 年後に実施される代議員選挙終了のときまで
支部長改選	(留任) 松本真一	2024 年 6 月～2026 年 5 月
常議員半数改選	(退任) 栗原広佑、権代由範、齋藤俊克、笹渕正樹、柴山明寛、田中暁之、中村琢巳 (留任) 後藤伴延、櫻井真人、錦織真也、福士 譲、堀川真之、山本和恵 (新任) 鍵屋浩司、五上光紀、志賀俊輔、野村俊一、宮城 聡、宗政由桐、吉野裕貴	2023 年 6 月～2025 年 5 月 2024 年 6 月～2026 年 5 月 2025 年 6 月～2027 年 5 月
支 部 監 事	笹渕優樹、権代由範	2024 年 6 月～2026 年 5 月

〈支部事業〉

研究委員会	[部会名] [部会長] [研究テーマ] 構 造 : 五十子幸樹 耐震工学と異分野の融合に向けた調査研究 材料施工 : 西脇智哉 建築現場の省力化を目指したデジタル技術の調査研究 建築計画 : 坂口大洋 縮退社会における建築計画の課題抽出と実践化 地方計画 : 小地沢将之 小地域のエリアマネジメント 建築史・意匠 : 黒坂貴裕 歴史的建築及び資料の保存・活用に関する研究 環境工学 : 許 雷 東北地方の建築・都市の統合的な環境負荷削減のあり方に関する研究 建築デザイン教育 : 櫻井一弥 東北地方の建築デザイン教育の質的向上に関する研究 災害調査連絡会 : 佐藤 健 東北地域における地震及び各種災害が発生した際の調査、広報に関わる連絡や調整および関連事業の企画立案と支援 津波に強い建築を活用した津波減災研究委員会 : 田中礼治	
支部研究補助費による研究	研究題目：建築現場の省力化を目指したデジタル技術の調査研究 研究部会：材料施工部会 (研究代表者 西脇智哉)	2025 年 4 月～2026 年 3 月
支部研究報告会	2025 年度 第 88 回東北支部研究報告会 研究報告集第 88 号計画系・構造系刊行 発表題目 76 題	2025 年 6 月 21 日 東北学院大学五橋キャンパス
建築デザイン発表会	2025 年度 第 11 回東北支部建築デザイン発表会 発表題目 8 題	2024 年 6 月 21 日 東北学院大学五橋キャンパス

支 部 主 催 支 部 共 催 イ ベ ント	1. 支部主催 1) 建築文化週間事業 2) 第 35 回「東北建築作品発表会」の開催 3) 第 46 回「東北建築賞」の選考 4) みちのくの風 2025 宮城 ・支部研究報告会 ・建築デザイン発表会 ・特別講演 ・司法支援建築会議東北支部講演会 ・第 45 回東北建築賞表彰式ならびに受賞記念講演会 2. 支部共催 親と子の建築講座・建築文化週間事業 ・宮城会場 1 件 ・岩手会場 1 件 ・秋田会場 2 件 ・福島会場 1 件 3. 男女共同参画事業	2025 年 10 月 2025 年 10 月 4 日 2025 年 10 月～2027 年 1 月 2025 年 6 月 21 日・22 日 東北学院大学五橋キャンパス 2025 年 7 月～2026 年 2 月 2025 年 4 月～2026 年 3 月
研究部会主催	1. シンポジウム 2. その他、部会ごとに講習会・研究会・見学会などを適宜開催	
表 彰	1. 日本建築学会東北支部功労者表彰 2. 終身正会員の紹介 3. 日本建築学会設計競技部入選者の紹介 4. 第 45 回東北建築賞表彰式	2025 年 6 月 21 日 東北学院大学五橋キャンパス
支 所 活 動	青森支所 ・幹事会 ・全員協議会 ・支所主催講演会 秋田支所 ・第 54 回秋田県工業系高校生による建築設計作品コンクール 岩手支所 ・第 49 回盛岡市都市景観シンポジウム後援 山形支所 ・学協会ワークショップ 福島支所 ・親と子の都市と建築講座：福島市 ・後援事業	2025 年 7 月 2026 年 2 月 2025 年 11 月 2025 年 11 月 2025 年 7 月
刊 行 活 動	支部年報第 45 号発刊 東北支部研究報告集第 88 号計画系・構造系（第 11 回東北支部建築デザイン発表会込）ダウンロード版発行 東北建築作品集第 35 号発行	2025 年 5 月 30 日 2025 年 6 月 21 日 2025 年 10 月 4 日

〈支部共通事業〉

講 習 会	「小規模建築物基礎設計指針」改定講習会	2025 年 12 月 4 日 ハーネル仙台
展 示 会	全国大学・高専卒業設計展示会 山形市、郡山市、八戸市、仙台市、由利本荘市で開催	2025 年 6 月～11 月
審 査 会	・2025 年度支部共通事業日本建築学会設計競技 課題「『解築学』を可視化する―解体と循環の時代を切り拓け」 ・日本建築学会「作品選集 2026」東北支部選考部会	2025 年 7 月 オンライン（Zoom） 2025 年 6 月～9 月 オンライン（Zoom）

法人・賛助会員

(株)阿部重組

阿部建設(株)

(株)関・空間設計

鹿島建設(株)

(株)久米設計

(株)熊谷組

清水建設(株)

仙建工業(株)

大成建設(株)

(株)竹中工務店

戸田建設(株)

(株)ユアテック

西松建設(株)

(株)安藤・間

堀江工業(株)

(株)ピーエス三菱東北支店

(株)三菱地所設計

(株)山下設計

(株)梓設計

東日本興業(株)

(株)昂設計

(株)本間利雄設計事務所+
地域環境計画研究室

(株)東北開発コンサルタント

東日本旅客鉄道(株)

(株)I N A新建築研究所

(株)ティ・アール建築アトリエ

日本原燃(株)

(株)楠山設計

クレハ錦建設(株)

(株)工藤組

東双不動産管理(株)

アイジー工業(株)

東北電力(株)

日本大学図書館工学部分館

八戸工業大学

一般社団法人

東北空気調和衛生工事業協会

東北芸術工科大学

山形県立図書館

一般社団法人 日本建築学会東北支部

支部年報第 45 号

2025 年 5 月 30 日発行

編集責任者（図書情報担当常議員） 野口 巧巳
